

教育学研究科論集刊行にあたって

いま、子どもの学力低下や学級崩壊、規律意識の低下などの教育問題が目立ち、学校や教員をめぐる環境はめまぐるしく複雑化してきております。その中で、大学での教員養成をめぐる状況も大きく変化してきております。これまで、教員養成は、主として教員養成系大学が行ってきた経緯があります。しかしながら、団塊世代の大量退職によって教員不足が起こり、多くの大学でも教員養成を行うようになりました。本学も平成19年4月に、小学校、特別支援教員の養成を目的として文学部に教育学科が設立され、平成23年4月、初めて教員を世に送り出すこととなります。

教員の大量採用によって、資質向上の必要性が叫ばれ、大学での教員養成の在り方が中央教育審議会でも取り上げられ、教員養成6年制や1年間の教育実習等が議論されるようになりました。たしかに、情報化社会の中で、いま起こっている教育問題は単に学校や教員だけでは解決できませんし、教員の資格を修士とするだけでは解決できません。学校・家庭・地域を包括した改革が必要となります。

このような教育改革の流れの中で、文学部教育学科を基礎に「広い視野にたって精深な学識を授け、高度な専門性が求められる教員をはじめとする教育に関連する職業を担うための卓越した能力と、これに加えて教育諸関連学における研究能力を培うこと」を目的とした大学院を開設しました。

今後、教員の資質向上のみならず、生涯学習時代における人材の養成に大学院教育のウエイトは増すと予想されます。本研究科の設置目標にそって、大学院としての役割を果たしたいと考えております。

今回、教育学研究科として論集を発刊する運びになりました。創刊号として多くの方々に協力していただきました。これを機に、大学院教育のさらに充実、発展させていくつもりです。

愛知淑徳大学大学院教育学研究科長 中野靖彦